



広安里 第9号

発行 釜山日本人学校
釜山広域市水営区民樂路 19 番道 11
TEL 051-753-4166
FAX 051-756-4851
<http://user.chollian.net/~pusjpnsc>

「27年度教育課程」はマイナーチェンジ！！

釜山日本人学校長 西出 昇

早いもので着任して10ヶ月余がたちました。今回、文科省関係の校務で数日東京に帰国しました。タイトな時間のなかで幸い学生時代の友達と歓談する機会も持てました。それぞれ全く違った世界に進み、各々の職場でシニアを迎えました。そして現職継続や第二の職場で現役同様にあるいはそれ以上に活躍していました。ある友達が「今の仕事に悔いのないように頑張る。それが済めばあとは死ぬだけしかないんだぜ（頑張る最後の機会があることに感謝しているのだろう）」と哄笑していました。年に一度会うかどうかの細い繋がりですが、出会ってから早いもので45年たちました。でも彼らと歓談すると今も新鮮な刺激を受けます。まだまだという意欲をもらえます。そんな気持ちになって釜山に戻ってきました。

さて校務では本校の過去の記録や資料を読み込む作業も続けています。日を経て同じ資料に目を通すと違う意味合いが行間に含まれていて、いくら読み込んででもこれで十分ということがありません。不十分と思いつつも次年度の構想を組み立て、実践に取り組みたいと思います。

組み立てるにあたって次のような点を考慮しています。

① 小規模のメリットを生かす。

まず本校は小規模校ですが、その分いろいろな点で身軽なので変化に対応しやすいと考えています。教育課程も大規模校では、その裏打ちが難しいような手直しもできます。

文科省の方針の先取りも一部取り入れることを検討しています。

② 国際理解教育の充実

特別な行事をあらたに立ち上げ、授業時数を削るのではなく、平素の授業や行事の中で国際理解を深めることができるような工夫ができないかと検討しています。

③ さまざまな人々とのふれあいを積極的につくる。

小規模校の難しい点は子どもたちの人間関係が狭く固定しがちな点です。日本人学校は児童生徒の出入りが比較的が多く、そのマイナス面が薄まりがちですが課題であることには変わりありません。そのようなことから、校内外の異年齢の様々な人々とのふれあいの機会をつくるよう努めたいと思います。

④ 施設の充実

子どもたちが日本に帰国した際、日本国内のIT教育に遅れることがないように、できる限り国内並の充実に留意します。ただ限られた資金のなかでのことですので限界はあります。等

以上のことを職員間でさらに具体的し、2月のPTA総会のときに説明したいと思います。リスクもありますが、皆様のご理解とご協力を頂ければ幸甚です。



学級の窓

小学部5・6年生

学級目標

Important Everyone!! ～大切な仲間～

小学部5・6年生は、5年生5名・6年生2名（男子4名、女子3名）の合計7名の複式学級です。とても明るく、元気があり、笑い声の絶えないクラスです。4月より一人ひとりを大切にして尊重しようということで、学級の目標を“Important Everyone!!”（大切な仲間）にしました。みんなで学級朝会の準備をしたり、レクリエーションをしたり、男女問わず一緒に活動することでチームワークが高まったように感じます。表現力も豊かで、ダンスや演劇では潜在する力を発揮しながら楽しんで取り組みました。また、様々な行事を通して、リーダーシップとは何かということを学んでいます。残りの日々で、さらに学校の中心的存在となるよう、指導・支援していきます。

小学部5・6年生の目指す児童像

- 一人ひとりを大事にし、お互いから学び、学び合える子ども
- 自分自身のよさを知り、自分が好きになれる子ども
- 何事にも誠実に、一生懸命取り組む子ども

～学級での取り組み～

1分間スピーチ …自由なテーマで、夢や奇想天外な楽しい話を堂々と話すことができるようになっています。

よかったこと発表 …毎日帰りの会で、その日印象に残った楽しいことなどを時間が無くなるほど発表し、互いに感謝の言葉をかけています。

「考えノート」 …多面的な考え方や想像（創造）力を育むために、毎週末に様々なテーマで取り組んでいます。

将来の夢

僕は科学者になりたいです。科学者になってニュートンのように科学で証明したり、宇宙のことを研究したりしたいです。

僕はこれから人を喜ばせることができるような人になりたいです。人が喜んでくれると、僕も喜ぶことができるからです。

私は薬剤師とパティシエールになりたいです。人を笑顔にし、喜んでもらいたいからです。

僕は野球選手になりたい。理由は日本で少しの間習っていた野球がとてもおもしろかったからだ。夢を実現するために、日々たくさん運動をし、体力を高めたい。

私はピアノの先生と建築士になりたいです。たくさんの人に楽しさを伝え、笑顔になってもらいたいからです。

私は保育士か産婦人科の看護師になりたいです。子どもが大好きだからです。そのために、ピアノをしっかりと練習し、子どもの成長の勉強を少しずつしていきたいです。

将来の夢はマンガ家です。わけは絵が好きだし、いろいろな話が作れるからです。まず、みんなを笑わせるマンガを作りたいです。

「理科的」韓国ふしぎスポット

教諭 住吉谷 大輔

「みんなの体重は、紙コップいくつで支えられるでしょう？」

つい先日、中学部1年生の『圧力』の授業で投げかけた質問です。「ために、紙コップ1個の上に乗ってごらん。」と片足を乗せてみると、一瞬にして紙コップはつぶれてしまいます。検証実験では、均等に並べた紙コップの上に1m²ほどの大きさの板をのせ、生徒の1人にもその上に立ってもらい、1個ずつ紙コップの数を減らしていきましました。さあ、みなさんはいくつの紙コップで体重を支えられると思いますか。

私は今年、小学部4年生から中学部2年生までの理科の授業を担当しています。身の回りで起きている見慣れた現象も、科学の目で分析してみると、新たな発見があります。今回は、理科が好きな人も苦手な人もきっと楽しめる、韓国内の「理科的」ふしぎスポットを2つ紹介したいと思います。

<海が割れて道ができる！？神秘の海割れ>

「モーゼが手を挙げると、たちまち海が割れ、そこには道ができあがった…」これは旧約聖書の中にある神話ですが、韓国の南部、全羅南道にある珍島(진도)では、それとよく似た現象が起きます。

珍島の東にある回洞里(회동리)という村から、海を挟んで向かい側にある茅島(모도)まで、普段は海が広がっている場所に、幅30~40m、長さ約3kmに及ぶ道が現れます。完全に道が現れている時間はわずか1時間程度で、1年間でも数えるほどしか見られない貴重な現象です。珍



島では、この海割れ現象に合わせて「珍島神秘の海割れ祭り」が行われています。今年は3月20~23日に予定されており、これが海割れを見ることのできる絶好の時期でもあります。お祭りの当日は、韓国内からたくさんの観光客が訪れるため、ゆっくり海割れを楽しむ余裕がありませんが、一度は見る価値がある現象だと思います。

<ボールが勝手に上っていく！？ふしぎな坂道>

坂道にボールを置くと、当然ボールは低い方に向かって転がっていきます。でも、置いたボールがころころと坂道を上っていくとしたら…。済州島にある「神秘の道路(신비의도로)」, 別名「トッケビ道路(도깨비도로)」では、そんなふしぎな現象を目にすることができます。済州市内から4kmほど離れたこの道路では、見た目は上り坂に見えるのに、車を止めてエンジンを切ってみたり、ボールを置いてみると、坂道の上の方に向かって車やボールが動き始めるのです。このふしぎな現象の秘密は、人の目の錯覚にあります。道路沿いの風景の影響で、人間の目では上り坂に見えますが、実際はやや下り坂になっているそうです。とは言っても、実際その場に立ってみると、どう見ても上り坂に見えるところがまたふしぎなのです。写真ではこのふしぎが伝わりにくいので、ぜひボールを持ってこの道路を訪れてほしいと思います。



韓国も日本同様、自然に恵まれた国ですが、理科的にも興味深い観光スポットがたくさんあります。今回紹介したスポットは、釜山からは少し離れていますが、春休みなどを利用して足を運んでみてはいかがでしょうか。ちなみに、冒頭で紹介した紙コップの実験、正解は「3個」でした。実験に協力してくれた生徒の体重が40kgほどだったので、紙コップ1個で少なくとも10kg以上の重さを支えていたこととなりますね。これからいろいろな理科の魅力を子どもたちと共有していきたいと思っています。